

The Atmosphere of near the Equator :
The trip to Singapore and Malaysia

Cosmos Café Staff

Artificial Intelligence Laboratory, Department of Intelligent Interaction Technologies
Graduate School of System and Information Engineering, University of Tsukuba

Junya HIROSE

3月16日、マレーシア及びシンガポールへの旅が始まった。今回の旅はマレーシア・シンガポール両国の歴史、特徴、そして教育を学ぶことを目標としている。特に我が大学である筑波大学と連携協定しているマレーシア工科大学（UTM: Universiti Teknologi Malaysia）内にあるマレーシア日本国際工科院（MJIT : Malaysia-Japan International Institute of Technology）との親交を深めることを目的としている。マレーシア日本国際工科院は2011年に日本とマレーシア両政府が協力し開校された大学である。2012年に環境関係分野が開講され、筑波大学の生命環境系と学生受入れや教員派遣など密な交流を行なっている。また、昨年12月に筑波大学マレーシア・クアラルンプールオフィスが開設されたことも記憶に新しい。

17日朝、同行者の前園桜さんと共にシンガポール・チャンギ国際空港に到着。半日以上移動を終え疲れきった体を起こしたのはその雰囲気だった。空港に降り立った瞬間感じる温度、湿度、それらはもう日本ではないことを教えてくれた。そして空港の優雅さは世界的経済の中心であることを主張しているようだった。まず、荷物を取り夏服に着替え、シンガポールでの拠点となるホテルへ向かった。ホテルに着くと次の目的地であるシンガポール国立大学（NUS: National University of Singapore）に行くため主要な交通機関である地下鉄マス・ラピッド・トランジット（MRT: Mass Rapid Transit）に乗り込んだ。日本の電車はその安全性と正確な運行で有名だが、MRTもそれと遜色のないレベルであることが一度乗るだけで理解できた。改札はもちろんIC式で、プラットフォームはすべての駅で導入されているらしい。また、路線も多くシンガポール中を駆け巡ることも可能だ。初めて訪れるアジアの国の技術に感動しながらNUSの最寄り駅に到着した。駅を出ると僕たちを待っていたのは前園さんの友達であるモニカさんだ。彼女はNUSの学生でありNUSを案内してくれる。NUSはアジアでも有数の大学であり、キャンパスも広大だ。キャンパス内はシャトルバスで移動し、学生用の寮も敷地内にある。また、大学内の道路にはスピード抑制のための段差があった。そのため、筑波大学と非常に似ていると感じ、親近感を持つことが出来た。私達は主にケントリッジキャンパス（Kent Ridge Campus）を見て回った。NUSにはケントリッジキャンパスとブキティマキャンパスの2つのキャンパスから成り立ち、シンガポール唯一の総合大学となっている。また、世界的に評価も非常に高く、その自信の表れか、それぞれの学部の謳い文句を載せた旗がいたるところに設置してあった。その中でも Computing の旗が個人的に気に入り、そこには”BECAUSE WE SPEAK THE LANGUAGE OF THE FUTURE”と書かれていた。食堂も案内してもらい軽食を食べたが、ここでNUSが非常に国際的な大学であることを魅せつけられた。なんと、食堂には中華、イタリア、フランスなどさまざまな料理の店が入っていたのである。もちろん日本料理まである。日本の大学の国際化と





は違い、NUS は学生の生活面も考え世界中の学生を受け入れているのだろう。筑波大学もチューター制度などがあるが、世界中の宗教、文化などを考えるとまだまだ学ぶことが多いのではないだろうか。NUS の訪問は世界トップレベルの大学がどのような雰囲気なのか、トップたる所以は何なのかを知る上で非常に有益なものとなった。もちろん大学以上にその学生達・教員達の頑張りがあるからこそのものであり、私自身これから研究を進めていく中でこの経験が大きな役に立つことだろう。モニカさんに謝辞を述べ、初日の最終目的地であるナイトサファリへと向かった。ナイトサファリは世界初の夜のみ開演するサファリパークであり、シンガポールでも随一の観光名所である。また、絶滅に瀕している

動物が多いことでも有名で動物の生態に興味がある人は是非訪れてほしい場所だ。夜ということもあり、あたりは薄暗く本当に野生の中での動物の姿を見ているような気持ちにさせてくれる。開催されるショーも素晴らしく初日を締めくくるには非常に有意義な場所であった。

2日目、早くもシンガポールの旅は最終日となった。この日はマーライオンのあるマリーナ湾近くで過ごした。マリーナ湾はマーライオンを始め、アート・サイエンス・ミュージアム、ガーデンズ・バイ・ザ・ベイなどの観光名所が集まった場所である。また、すぐ近くにあるマリーナ・ベイ・サンズホテルは3つのホテルの上に船が乗っているような外観をしたホテルで建造物としても一見の価値がある。ガーデンズ・バイ・ザ・ベイはその名の通り



マリーナ湾すぐそばの巨大な植物園である。遠くから見えるそのスーパーツリーは見る者を魅了し興味を掻き立てる。ガーデン内には2つのメインドームがありその内の1つクラウド・フォレストはとても神秘的な場所でアニメの世界に入ったかのような錯覚を起

こさせる。なぜなら35mの人工の山からは滝が流れ落ち、周りには霧が発生し、雲の中にいるかのような景色が広がるからだ。これは実際の標高2000mの山の設定で作られているためである。また、ガーデンは日本では見る事が出来ない様々な種類の植物を見ることができ、それぞれの気候に適した進化を遂げる生物の神秘を垣間見ることが出来る。そして旅の思い出としてシンガポールの目玉ともいえるシンガポール・フライヤーに乗り込み、この短いシンガポールの旅を終えた。

シンガポールから飛行機で1時間するとすぐにクアラルンプールに到着した。クアラルンプールはマレーシアの首都でマレー系や中国系そしてインド系の人々が暮らし、それぞ

れの文化を持ちながら生活している超多民族都市である。しかしながら、ほとんどの人が英語も話すので旅行者が困ることはない。クアラルンプールについては日も暮れていたのでもホテルに直行し、次の日に備えた。

クアラルンプールの初日は今回の旅のメインイベントである MJIT の訪問を行う予定だ。まず驚かされたのは、ホテルを出ると迎えてくれるそびえ立つビルの群れだ。そしてモノレールや地下鉄など公共機関もすぐ目の前にあり、東京の町並みと遜色ない発展した都市であることを印象づけられた。さらに驚かされたのは至る所にある日本語表記の案内である。駅の看板にはもちろん、街中の案内にも日本語で示されていて、初めて海外で日本語が使われていることを目の当たりにし、とても感銘を受けた。日本とマレーシアが協力し



MJIT を設立したように、他の部分でも両国の関係は友好のようだ。そして市街地からすぐのマレーシア工科大学クアラルンプールキャンパス内にある MJIT に着いた。第一印象は”カッコいい”だった。建物は1つしかないがそのエントランスの堂々たる風貌は訪れたものをワクワクさせる魅力があった。中に入ると最初に出迎えてくれたのは筑波大学マレーシア・クアラルンプールオフィスの秘書をして

いる東さんだった。東さんに案内され MJIT の説明を受けた。MJIT は日本の工学教育を行う大学で、現在、筑波大学を含む 25 の大学と外務省などの 5 つの機関とコンソーシアムを形成している。電子工学、機会精密工学、環境工学、技術系工学の 4 つの領域が開かれ、協力している日本の大学からの教員派遣や学生交流などが行われている。筑波大学からも多くの教授が MJIT で指導を行なっている。



杉浦則夫教授のその一人で、筑波大学の教授の傍ら、MJIT でも教授として活躍されている。杉浦教授は水環境汚染分野の研究をされており、有害物質の特性解析や原因解明を行なっている。後藤教授や原准教授ともお話しさせていただき研究室見学もさせていただいた。研究室の学生は非常に親切で研究室内にある装置を丁寧に説明して下さった。研究室は広く設備も整っており研究するなら非常に良い環境であることが感じられ、学生も積極的に教授たちと議論を交わすなど、これから先 MJIT が世界的な大学



になっていくことを予感させた。一通りの見学終わると杉浦教授が夕食に誘ってくれ、キャンパスをあとにした。夕食ではさまざまなことを話した。そもそもなぜ研究者を目指し

たのか (杉浦教授は過去に航空の専門学校でパイロットをされていた) や理想の水はどのような水であるか, そしてそれを水道水として流すことは可能なのか, など非常に興味深い話を聞くことができた. また, 杉浦教授から”自分のやりたいことに向かって頑張れ”という助言もいただき, 人生の大先輩が私達の夢を後押ししてくれる素晴らしい時間を過ごすことが出来た. MJIT での時間はこれから先の人生で大いに手助けになるだろう.

旅の残り 2 日間はマレーシアの歴史や自然をみて回った. まずヒンドゥー教の聖地として知られる Batu Caves を訪れた. 野生の猿が周辺に生息し間近で見ることができ, さらに 272 段の階段を登った先にある洞窟は非常に神秘的な空間で迎えてくれる. 次にマレーシア国立博物館を訪れた. マレーシアの成り立ち, 文化の発展, 技術の進歩など歴史に興味があれば是非知りたい情報が多々あった. クアラルンプール・タワーは都市の中心にあり, さらに標高 94m の丘の上に立てられているため非常に存在感があった. また, 近くにあるペトロナスツインタワーは世界一高いツインタワーでマレーシアの発展を感じることができた.

今回の研修旅行では非常に多くのことを学ぶことが出来た. そもそもあまり海外に行くことがない私にとって初めて触れる文化・環境から得られることは想像以上に多く, 自分の無知さが恥ずかしくなるほどだった. しかしこの研修を通じ, それらを学ぶことで成長出来たように思う. また, 普段の旅行では決して体験することが出来ない海外の大学への訪問, さらにそこで指導されている教授との交流など, 非常に貴重な時間を経験することが出来た. これらの経験はこれから先の人生を大いに照らしてくれるに違いない.

最後になるが, 今回の研修を企画して下さった白岩善博教授に深く感謝の意を表します. また, 研修のための手続きから旅行におけるアドバイスまで幅広く支援して下さった五十嵐さんにお礼申し上げます. そして, 現地でのサポートをして下さった杉浦教授, 後藤教授, 原准教授, 東さんに深く感謝します. また NUS を案内してくれたモニカさん, 研究室見学を受け入れてくれた学生, そして, この研修を共に過ごした前園桜さんに感謝の意を表します.